

## 第2回屋外温浴施設に関する基本構想策定委員会 議事要旨

日時：令和2年1月29日（水）9:00～11:10

場所：別府市役所 5F 大会議室

### 1. 第1回委員会議事要旨について

#### <事務局説明>

第1回委員会議事要旨について説明

#### <主な意見>

- ・ これまで国内で水着を着て利用する温泉施設でうまくいっている事例は聞いたことがないため、事例に紹介された温泉の経営等、成功事例があれば研究する必要があるのではないか。
- ・ タラソテラピーはヨーロッパでは人気だが、日本では、フランス、スペインの事例をモデルにして持ち込んだ為か、ほとんどがうまくいってないと聞いている。いたずらに形の真似をして、同じ価格帯、同じサービス内容としても、必ずしもうまくいかない。
- ・ 日本人にとって、タラソテラピーは、真新しい施設ではあるが、日本には海水が当たり前にあるので、海水に5万円をかけるのか、という感覚があるのが大きいのではないかと考える。
- ・ 一方、混浴で水着というのはこれからのトレンドとしてあるのではないかと思う。みんなでお風呂に入ると楽しいということは確かであり、この流れをキャッチして、それに見合った提案をしていくということが重要と考える。
- ・ 今回の事例に関して、行政の関わり方、支援等について調べ、本構想に役立たせる必要があるのではないか。
- ・ 稼げる装置について考えることが第一であり、ブルーラグーンの事例に拘らず、別府らしさを追求する中で圧倒的なスケールと質をもつ施設について、議論するものと認識している。
- ・ 圧倒的な自然の中に自分を没入させるものがよく、日本の温泉の良さである秘湯感と規模感を大自然の中でいかに実現できるか、というのが大事ではないかと考える。
- ・ ブルーラグーンが、空港から30分から40分くらいかけて、溶岩の自然風景を楽しみながら辿り着くようになっているのに対して、別府の場合は、これとは全く違う環境となっている。行きつくまでは人工的であるのに対して、ブルーラグーンは、ここだけのために行くという特徴があり、そのため、冬場での利用もある。
- ・ 日本人は、冬場に水着を着て温泉には入らないのではないかと。女性は、入らないと思う、特に露天風呂。屋内の熱い温泉に入った後に露天というのはあるが、レンタルで水着を借りるということではなく、自分の水着を準備すると思われる。これは清潔感に関わることであり、冬場で成功している事例はないものと思われる。聞いたことがなく、成功事例はゼロに近い。
- ・ 別府の顔となる施設なので、経営破綻すると大変なマイナスイメージになるので、成功するやり方を考えていく事が必要であると考え。この点からもブルーラグーンに拘らないことも大切である。
- ・ 清潔感もさることながら、女性は筋肉量も少なく寒さを感じやすいので、寒い所に行くというのは嫌がると思う。一方で、水着や湯浴み着着用で冬でも利用者が多い温泉施設もあると聞いている。  
水着で入る事は大変であり、プールとイメージが重なる面もあり、屋外で冬場に水着を着るかといえば、個人的には着ないと思う。

- ・ 海外では、屋外プールが温泉あるいは水であるが、自然と一体化している。利用者は自然・景色と一体化した中で、2～3週間滞在し、温泉に入り、ウエルネスプログラムを楽しみ、医師に診てもらい、健康になって帰る、ということであり、その中で水着を着るということはあるかと思う。

## 2. 議事

### (1) 想定される事業用地の比較検討

### (2) 建設時及び運営時に想定される関係法令について

### (3) その他

#### <事務局説明>

想定される事業用地4か所（鍋山地区・十文字原地区・上人ヶ浜公園地区・北浜温泉及びび的ヶ浜公園地区）の比較検討、建設時及び運営時に想定される関係法令について説明

#### <主な意見>

- ・ 日本人は、四季があるため、寒い冬季に水着を着て入浴する習慣は無い。外国の方とは違うと考える。稼げる施設として、冬場は厳しいと思う。日本人は四季を基にした楽しみ方をする。
- ・ 民業を圧迫する施設は止めるべきである。同じものの焼き写しはないものとする。
- ・ 砂湯にプラスアルファで温浴施設があるという考え方もよいと思う。
- ・ 現状確認している湯量では、足りないのではないか。新たな余剰湯量確保も検討してほしい。
- ・ ブルーラグーン、温浴施設、露天風呂にこだわっていくと、行き詰まるのではないかと考える。
- ・ 他の地域に無いものを前面に押し出して、魅力を大きく引き出すということが大事だと思う。
- ・ 熊本県内の、とある温泉については、なぜ人が来るかと言えば、混浴であること、湯浴み着、水着を着ること、ではなく、山奥の一軒家の秘湯であることと考えている。そこにしかないお湯を求めてきている。日本の中でも1%以下の珍しい温泉成分である。そういったことから、無理にお湯をかき集めて、大きな人工的な浴槽をつくるのではなく、今、そこにある資源の見せ方、利用の仕方について機転をきかせることができるのではないかと考える。
- ・ 今回の施設が観光客を囲い込む施設ではなく、ポータル機能を持たせて、ここを出発点として市内各地へ観光客を送り込めるような誘導機能を持たせ、別府市全体が稼げる施設として欲しい。
- ・ 色々な浴槽がある施設と想定した場合、全てが屋外としなくても良いと思う。
- ・ オーバーツーリズムの話もあるため、予約しないと入れないというぐらい価値があるものをつくっていかないといけないと思う。
- ・ 日本の風呂の語源は「室（ムロ）」からきており、江戸時代中期までは、蒸気の蒸し風呂に入るのが中心であり、「フロヤ」と「ユヤ」が混在していた歴史がある。この千年以上

もある蒸し湯の文化を再現していくことも考えられる。

- ・ フィンランドサウナがサウナの後で湖水に飛び込むように、別府では砂湯や蒸し湯の後に海に向かって温泉に飛び込む、ということがあればひとつの物語ができる。
- ・ ハブ機能と温泉博物館的な機能を持たせて、多様な温泉、名物、歴史の紹介を行うことで、市内の各地に飛び立っていただくということも考えられる。
- ・ 掛け湯は身体と心を清めることであるといった温泉道を世界の人々にも伝えるといった情報発信を行う場所であって欲しい。
- ・ 公共性を持たせることは難しい課題ではあるが、情報発信拠点、啓発の場、学びの場の機能をつくることは公共性をもたせることにつながると思う。
- ・ 本物感、別府らしさなど、いくつか方向性を出していただき、ご意見を踏まえて基本構想としてまとめていきたい。

### 3 連絡事項

以上